

# 令和3年度事業報告書

## I 全般の概況

令和元年末から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、世界各国で感染防止のための公衆衛生措置が取られた結果、個人・企業・団体の活動は著しく行動制限され日本においても、2年余にわたり経済・社会・文化・教育研究等あらゆる分野で行動変容を求められ、今なおウイズコロナの行動について模索が続いている。

当財団においても、令和2年、3年両年度にわたり、感染拡大防止のための様々な対策を行い公益事業の促進に努めてきたが、令和2年度においては、記念賞への応募者がなかったこと、国際法協会世界大会のオンライン開催変更に伴う「安達峰一郎記念セッション」の中止及び財団創立60周年記念事業開催延期等により、公益事業活動は計画を達成することができず、財政の良化も相俟って、公益事業会計においては収支相償プラスの止むなきに至った。

令和3年度は、感染拡大が未収束であることを踏まえ、更に「安全・安心」や「デジタル化」の工夫を図ると共に、(公1)表彰事業及び(公2)研究助成事業においては、14年振りに記念賞副賞賞金及び奨学金の給付額の増額を行った。また、(公3)広報事業においても、安達峰一郎の業績等に関する多数の情報発信を行うことができた。(公3)調査事業では、永年の懸案であった収蔵美術品の修復に一部着手できた。

前年度延期された財団創立60周年記念事業開催は「安全・安心」対策の基、多くの関係者の参加を得て実施され、アーカイブ配信も含め共感を呼ぶことができた。

## II 事業展開

### 1 公益事業1 表彰事業

#### (1)「安達峰一郎記念賞」(第54回)

令和3年9月10日「安達峰一郎記念賞」選考委員会(オンライン開催)において、推薦依頼者より推薦のあった記念賞候補者2名の国際法に関する研究業績について慎重審査の結果、第54回安達峰一郎記念賞受賞者には、以下の方が選定され、

11月22日「財団創立60周年記念の集い」の席上、表彰状、正賞「安達峰一郎記念銀製メダル」、副賞「金80万円」の贈賞式が行われた。

受賞者	安藤 貴世 氏 (日本大学危機管理学部教授)
研究業績(著書)	国際テロリズムに対する法的規制の構造： テロリズム防止関連諸条約における裁判管轄権の検討 2020年4月発刊 国際書院

## 2 公益事業 2 研究助成事業

### (1) 「安達峰一郎国際法奨学生」(第57回)

令和3年4月21日「安達峰一郎国際法奨学生」選考委員会(オンライン開催)において、推薦依頼先より推薦のあった8名の候補者の研究課題レポートについて慎重審査の結果、令和3年度国際法奨学生に以下の7名が選定され、月額6万円(年額72万円)の給付型奨学金の支給が実施された。

そして、令和4年2月18日「国際法奨学生研究報告会」(オンライン開催)において、奨学生7名により、研究成果の報告が行われ、松井芳郎、奥脇直也、柳原正治、薬師寺公夫顧問より懇切な講評がなされた。

氏名	(所属)	研究課題
北島 佑樹	(東京大学大学院博士課程2年)	戦間期までの国際規制犯罪における個人の国際法上の責任
中村 勇樹	(東京大学大学院博士課程1年)	コミュニケーション網としての国際社会, 公論としての国際法
大西 耕輔	(同志社大学大学院博士課程)	国際人道法における欺瞞および虚偽情報の取扱いについて
北村理衣子	(京都大学大学院博士後期課程)	法多元主義を通じた欧州人権秩序の解体と統合 —信教の自由を素材—
鈴木 海斗	(一橋大学大学院博士課程2年)	先住民族の土地に対する権利 —脱植民地化における自決権の適用としての—
小野 純矢	(法政大学大学院博士後期課程)	国際法における保護法益の相克とその法的調整 —国連海洋法条約27条を素材として—
伊藤 和子	(早稲田大学大学院博士課程)	国境を超える企業による人権侵害の防止と被害救済 —規範実施と規範創造の動態—

### (2) 研究助成

一般社団法人国際法協会日本支部に20万円、東京大学国際法研究会に10万円の研究助成を継続した。

### 3 公益事業 3 広報事業・調査研究事業

#### (1) 広報事業

① 令和3年10月24日 公益財団法人日本国際連合協会主催の

i 第68回「国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール」

第一学院高等学校養父校3年 畑すみれ

演題「もし、私が世界の問題を一つだけ解決できる立場にあつたら、  
なにを達成しどのような世界にしたいか」

ii 第61回「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」

明治学園中学高等学校3年 坂本明優

演題「もし、私が世界の問題を一つだけ解決できるとしたら、何を解決  
し、どんな世界にしていきたいか」

それぞれ安達峰一郎記念財団理事長賞として、賞状及び記念の盾を贈呈した。

② 安達峰一郎奨学賞（第44回）

山形県山辺町（安達峰一郎の出身地の中学生卒業生のうち、もっとも学業成績が顕著で、心身ともに健康な者に「安達峰一郎奨学賞」（賞状、安達峰一郎記念銅製メダル）を贈呈した。

高橋幸太郎 山辺町立山辺中学校 第3学年

③ 安達峰一郎の業績の普及浸透広報

i 「国連ジャーナル2021年秋号」 鈴木正貢理事長執筆

—安達峰一郎の生涯と業績—（日本を代表する外交官・裁判官）

ii 「サンデー毎日9月～10月 3連載記事 理事（作家）井上卓弥執筆

—満州事変90年の秘話 外交官安達峰一郎の肖像—

iii 毎日新聞 11月11日朝刊 井上卓弥理事執筆

—発言：満州事変が伝える教訓—（60周年記念事業及び記念賞の紹介）

iv 山形新聞 11月23日朝刊

—「安達峰一郎記念財団創立60周年記念の集い」取材紹介—

v 「国際法外交雑誌 11月号 国際法学会」

—第54回安達峰一郎記念賞・受賞作の紹介—

vi 「ローエイシア・ニュースレター 2022年1月号」鈴木正貢理事長執筆

—安達峰一郎の業績紹介—

vii 「創立60周年記念の集い」開催内容のアーカイブ配信

2021年12月6日～2022年1月10日

\* 予定していた「安達峰一郎 人と業績」（当財団刊）の電子化及び

「メール配信サービス」は、来期に持ち越し、検討を続けることとした。

## (2) 調査研究事業

### ① 収蔵絵画の修復

「安達峰一郎生誕150年記念美術展」計画の際、山形美術館・東北芸工大共同で提出された「評価資料」に基づき、修復すべき作品を抽出、5年計画にて価値保全のための修復作業を開始した。修復作業は東北芸工大講師であった中右恵理子氏に業務委託、3月末に藤田嗣治作品を含む6点の修復が終了、納入された。

- \* 1 駐仏時代の書簡（紅・青ファイル）の翻訳・整理については、本年度実績はなかったが、山形大学人文社会学部安達峰一郎研究室と来年度以降も継続協議する。
- \* 2 トランクルーム Quraz に収蔵している未整理の書籍等のファイル化については、進展を見なかった。

## 4 特筆事項

### (1) 財団創立60周年記念事業について

令和3年11月22日（月）如水会館スターホールにて

「公益財団法人安達峰一郎記念財団創立60周年記念の集い」を開催した。

《第1部》「財団の歩み・事業を振り返って」

- 1 挨拶 鈴木理事長「全体概況：財団の歩みと事業を振り返って」
- 2 講演 松井顧問 「安達博士の活躍と照らしあわせて、財団活動の成果を語る」  
井上理事 「世界が見た安達峰一郎、更なる啓蒙活動に向けて」
- 3 特別表彰 柳原顧問 ～安達峰一郎著作選発行及び一連の啓蒙活動に対して～
- 4 第54回「安達峰一郎記念賞」贈賞式 受賞者：安藤貴世

《第2部》「これからの財団活動に向けて・・・懇親会」

挨拶 小和田元国際司法裁判所所長、柳井国際法協会日本支部代表理事、  
辻外交協会理事長、多田安達峰一郎顕彰会理事

スクリーン映写 NHK 制作「プロジェクトジャパン世界と出会った日本人」  
TV東京制作「世界を変える100人の日本人」

上記内容にて、関係者60名参加の上開催、好評裡に終了した。

また、開催案内の際、アーカイブ配信希望を受付、63名の方に配信を行うと共に、財団ホームページでのアーカイブ配信案内を行った。

なお、記念事業費2,266,684円は、特定費用準備資金として積立ててきた「記念事業積立資産」を全額取崩し充当した。

## (2) 内閣府立入検査について

2012年7月公益法人への移行認定以来、3回目となる内閣府立入検査（令和2年度事業報告書を中心として）が、12月15日に実施された。

立入検査において、「令和2年度に続き3年度も収支相償プラスとなった場合、公益事業活動の努力不足を指摘せざるを得なくなる。」として、時代の変化に即した公益事業のあり方及び報酬・費用の区分の基準を明文化することをはじめ、財団役員のカバナンスの確立が求められた。

これまで行ってきた諸規程の見直しに加え、「役員等の報酬等並びに費用に関する規程」「旅費規程」の改訂、「謝金規程」の新設及び「定款の一部変更」を第4回理事会（3月1日開催）・臨時評議員会（3月8日開催）にて承認可決を得て、内閣府へ「定款」及び「役員等の報酬等並びに費用に関する規程」の変更届を提出した。

## 5 事業資金の調達

令和3年度の調達金合計は、27,901,406円であった。

### 「利付国債」

国債3銘柄の運用益	9,266,000円
「投資有価証券」株式2銘柄の運用益	18,585,250円
みずほフィナンシャルグループ株式配当	(4,549,250円)
日本電信電話株式配当	(14,036,000円)
「特定資産受取利息」	40円
「雑収益」(普通預金利息)、雑収益	50,116円
総計	27,901,406円

## 6 令和3年度事業日程

- 令和3年 4月21日 国際法奨学生選考委員会（オンライン開催）  
4月23日 監査  
5月12日 研究助成金交付  
5月18日 令和3年度第1回理事会（オンライン開催）  
（令和2年度事業報告・決算報告の件）  
6月 1日 第6回創立60周年記念事業検討委員会  
6月 8日 定時評議員会（オンライン開催）  
（第1回理事会同案件）  
第2回理事会（理事長、常務理事の選定）  
9月10日 記念賞選考委員会（オンライン開催）  
10月 4日 第3回理事会（創立60周年記念事業実施計画）  
10月22日 国際連合協会主催「国際理解・国際協力のための全国中学生  
作文コンテスト及び高校生の主張コンクール」優秀賞送付  
11月22日 「財団創立60周年記念の集い」  
「第54回安達峰一郎記念賞授賞式」
- 令和4年 2月18日 国際法奨学生研究報告会（オンライン開催）  
理事長顧問懇談会（オンライン開催）  
3月 1日 安達峰一郎奨学賞贈呈  
第4回理事会（オンライン開催）  
（役員等の報酬等並びに費用に関する規程・旅費規程の改訂  
及び謝金規程の新設の件、折田理事辞任報告）  
8日 臨時評議員会（オンライン開催）  
第4回理事会同案件、定款の変更の件）  
16日 第5回理事会（オンライン開催）  
（令和4年度事業計画・収支予算の件）  
25日 臨時評議員会（オンライン開催）  
（第5回理事会同案件）

以上